

# とく しゅう★ 特集

## ふじさわ りゅう 藤沢と龍

ふじさわ りゅう でんせつ つた りゅう え ちょうこく てら  
藤沢にはいろいろな龍の伝説が伝わっていて、龍の絵や彫刻などがたくさんのお寺や  
じんしゃ み とく え しま しゅうへん みる つた りゅう でんせつ りゅう  
神社などに見られます。特に江の島周辺には古くから伝わった龍の伝説があり、龍に  
かんれん  
関連するものがたくさんあります。



えのしまえんぎ えが ごずりゅう てんにょ いわもとろうしよぞう  
「江嶋縁起」に描かれている五頭龍と天女(岩本楼所蔵)

ふしさわ りゅう かん でんせつ のこ  
藤沢には、龍に関するさまざまな伝説が残っています。

え しま しゅうへん しない じしゃ ぼぞん りゅう みる い つた  
江の島周辺をはじめ、市内の寺社に保存されている龍にまつわる古い言い伝えや

ほうもつ りゅう むかし だいじ し  
宝物からは、龍が昔から大事にされてきたことを知ることができます。

ねん りゅう しない たず  
2012年は、「龍」をキーワードに市内を訪ねてみませんか。

## てんにょ ごずりゅう でんせつ え しま えんぎ 天女と五頭龍の伝説～「江の島縁起～」より

むかし かまくら ふかさむら おお みずうみ ごずりゅう よ りゅう す わる  
昔、鎌倉の深沢村の大きな湖に「五頭龍」と呼ばれる龍が住み、悪いことばかりして  
いたので近くの村人たちは困っていました。

そんなある日、恐ろしい嵐や地震が起こった後に天女が現れ、海にはひとつの小さな  
島ができました。この小さな島が江の島、天女が弁財天だと言われています。

ごずりゅう うつく てんにょ す え しま つま  
五頭龍は、美しい天女を好きになりました。江の島へやってきて「妻になってください」とお  
ねがいましたが、天女は「人々を苦しめている者とは一緒になれません」と断り、洞窟の奥深  
くへと隠れてしまいました。

てんにょ あきら ごずりゅう こころ い か むらびと ぼたら  
天女のことを諦められない五頭龍は「これからは心を入れ替え、村人のために働いま  
す」と誓いました。一生懸命に働いた五頭龍は、ついには自らの体を変え、いつま  
でも村を守ることにしました。これが片瀬にある竜口山であると言われています。

でんせつ え しま えんぎ えまき ぶんしょ へいあんじだい ものがた う  
この伝説は、「江の島縁起 絵巻」という文書にかかれています。平安時代に物語りが生ま  
れ、鎌倉時代に絵巻として作られたとされています。この絵巻には江島神社の歴史や弁財天  
の不思議な力についての説明がまとめられています。

かまくら りゅうこうみょうじんしゃ き ぼ ごずりゅう しんたい おさ ねん いちど  
鎌倉の龍口明神社には木彫りの五頭龍がご神体として納められているの。60年に一度  
の「巳年式年大祭」で江の島までおみこして運ばれて、天女と再会する儀式が行われるの  
よ！なんだか、七夕のおり姫とひこ星みたいでロマンチックよね！





りゅうこうみょうじんしゃ ほうのう ごずりゅう えま  
龍口明神社に奉納されている五頭龍の絵馬

## あまご きがん りゅう ほね そうけんいん 雨乞い祈願の「龍の骨」～ 宗賢院

そうけんいん おおば だいらりゅうこつ よ ほね  
宗賢院(大庭)には、「大龍骨」と呼ばれる骨があります。

むかし ひで つづ とぎ りゅう ほね おがわ も た みず そそ あめ ふ い  
昔から「日照り続きの時、龍の骨を小川へ持ち出して水を注ぐと雨が降る」という言

い伝えがありました。どういん つた ぶんしょ めいじ たいしょうじだい なつ  
同院に伝わる文書には、明治のはじめから大正時代にかけて、夏の

ひで じき だいらりゅうこつ つか ひきしがわ あまご きがん ぎしき おこな  
日照りの時期、この「大龍骨」を使って引地川で雨乞い祈願の儀式が行われていたことが

きろく ちか むら あまご きがん だいらりゅうこつ か き  
記録されています。近くの村からも、雨乞い祈願のために大龍骨を借りに来たそうです。

だいらりゅうこつ たか なが げんざい げいるい どうこつ すいてい  
「大龍骨」は、高さ27cm、長さ62cmほど。現在では鯨類の頭骨と推定されていますが、

ちいさ まも ほうもつ たいせつ ほぞん  
地域を守ってきた宝物として大切に保存されています。





たいせつ ぼぞん たいりゆうこつ  
大切に保存されている「大龍骨」

ほうじょうし りゅうしんこう もん ゆらい  
北条氏と龍信仰～ミツウロコ紋の由来



べんざいてん ときまさ しょだいうたがわくにさた ふじさわししょぞう  
「弁財天と時政」～初代歌川国貞(藤沢市所蔵)



ほうじょうまさこ ちち ほうじょうときまさ べんざいてん ふか しんこう ときまさ え しま べんざいてん  
北条政子の父・北条時政は、弁財天を深く信仰していました。時政が江の島弁財天にこ

もって子孫の繁栄を祈っていると、満願の夜の明け方、赤い袴を身につけた美しい

女房の姿をした龍が現れ、「あなたの子孫は栄華を誇ることになる。ただし非道な行い

があれば家はたちまち滅亡するので、よくよく気をつなさい」と告げました。

目が覚めると、時政の手のひらには3枚の龍のウロコが残されていたそうです。

そのウロコを大事に持ち帰った時政は、北条家の家紋を「三つ鱗」としました。

この話は、「吾妻鏡」に出てくるエピソードがもとになっています。

江の島の島内では、現在でも寺社や公共の建築物などに、ミツウロコ紋のデザインが

数多く使われています。



とうろう いしだん て もん つか え しま さつえい  
灯籠や石段の手すりにミツウロコの紋が使われています(いずれも江の島にて撮影)



こずりゅうでんせつ え しま りゅう み い  
それでは五頭龍伝説の江の島に龍を見に行こ  
う!

き りゅう さが  
気づけばあちらこちらに龍がいます。探してみよう。



え しま い ぐち べんてんぼし りゅうとう ほんたい りゅう ま つ  
まずは江の島への入り口、弁天橋たもとの龍燈です。本体に龍が巻き付いています。

ねん えのしまじんじゃ ちんざ ねん きねん た  
2001年江島神社鎮座1450年を記念して建てられました



えのしまじんじゃ いりぐち べんざいてん どうしぞう りゅう すがた どうし べんざいてん じゅうしゃ  
江島神社入口にある弁財天童子像にも龍の姿。童子とは弁財天の従者になります



ちょうずや みず でくち りゅう あたま  
手水舎の水の出口も 龍の頭だよ



たぎつひめのみこと まつ へつのみや はいでん うえ ほう てんにょ ちょうこく はっけん  
田寸津比売命が 祭られている 辺津宮の 拝殿の 上の方 に天女の 彫刻を 発見



へつのみや せにあらい いけ べんざいてんおうごんじょうすい はくりゅう みまも  
辺津宮のそばにある 銭洗いの池(弁財天黄金浄水)では 白龍が 見守っています





かいだん のほ いちしまひめのみこと まつ なかつのみや はいでん りゅう ちょうこく  
 階段を 登って 市寸島比売命の 祭られる 中津宮の 拝殿には、 龍の 彫刻があります



のほ おくつのみや てあら じゃくち りゅう くち みず で  
 さらに 登って 奥津宮のそばのトイレにある 手洗いの 蛇口も 龍です。口から 水が 出てきます





たまりひめのみこと まつ おくつのみや はいでん てまえ どうろう りゅう てんにょ ちょうこく  
 多紀理毘売命が 祭られる 奥津宮 拝殿 手前にある 灯籠にも 龍と天女の 彫刻が！！



おくつのみや はいでん おお ほうのう  
 奥津宮 拝殿には 大きなしゃもじが 奉納されていて、

ひたり りゅう みぎ てんにょ えが  
 左には 龍、右には 天女が 描かれています





おくつのみや                      わたつのみや      りゅう  
奥津宮のとなりにある      竜宮の龍



りゅうけつ      よ              いわや      どうくつ              なが      ねんげつ              なみ      いわ      けず  
龍穴とも呼ばれる      岩屋の      洞窟は、      長い      年月をかけて      波が      岩を      削ってできたもの



いわや      いけ      なか      りゅう      ちょうこく  
岩屋の      池の      中に      龍の      彫刻があるんだ！



だいいちいわや おく りゅう おきもの  
第一岩屋の奥にある龍の置物



だいにいわや おく りゅう とまどき ひか ほ  
第二岩屋の奥の龍。時々光って吠えます

え しま りゅう かく  
江の島には、もっと龍が隠れているかもよ！

シーキャンドルやサムエル・コッキング苑などで春を楽しむついでに、みんなで島中をさが探してみよう！！

